

## 上田市における放射線対応

東日本大震災に続く福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が大気中に放出され、大きな不安が広がっています。市民の皆さんが安全な暮らしをするためには、放射線についての正確な情報を把握し理解することが大切です。

上田市では、日常生活の中で関係する様々な分野での放射線量及び放射性物質濃度の測定を行い、その結果をホームページ上で公表しています。

### ○空間放射線量の測定

上田市では、平成23年8月23日より、市全体の環境測定という視点から、右図のように市内を10キロメートル四方のメッシュに区切り、市民の皆さんの認知度や人口密度などを考慮して8箇所の観測地点（美ヶ原市営第一駐車場は、冬の閉鎖期間を除く）を選定し、継続して定期的な空間放射線量の測定を行っています。

平成24年10月30日までに測定した8箇所の観測地点の空間放射線量の結果は、毎時0.04マイクロシーベルトから0.08マイクロシーベルトの範囲でした。上田市では、常時監視を行うことにより、基礎データを集積するとともに、今後放射線に関する事態が発生した際にも迅速な対応ができる態勢を整えています。



### ○上田市の施設における放射線測定

上田市では市民の皆様が利用するすべての施設で放射線測定を実施することとし、保育園・小学校・中学校・公園をはじめ上田市が管理する施設及び私立幼稚園等の児童施設で、放射線測定を実施しています。

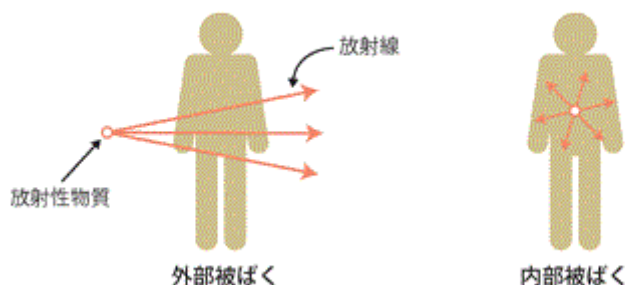
これまでに、366施設の1,125地点において、地表面と地上1mでの測定を行いました。その結果、測定値は毎時0.03マイクロシーベルトから0.23マイクロシーベルトの範囲であり、長野県が



【測定風景】

定めた除染の基準を大きく下回っていました。また、このうち比較的放射線量が高かった地点で放射性物質の核種を簡易測定したところ、自然界に存在する代表的な放射性物質であるカリウム40が放射線量に最も寄与していることが判明しております。

放射線・放射性物質が人体に影響を与える経路として、内部被ばくと外部被ばくがあります。外部被ばくは放射性物質が体外から影響を与えること、内部被ばくは食品等に含まれる放射性物質が体内に入って影響を与えることを言います。



(出典：電気事業連合会発行「原子力・エネルギー図面集 2012」)

人体への影響に関しては、環境への影響と分野は異なりますが、市民の皆さんの安全な暮らしのために上田市内でもさまざまな測定を行っていますので、ここで紹介します。

上田市では、各種施設における放射線・放射性物質に関して、次の 5 項目について定期的に測定を行っています。

- プール水の放射性物質濃度測定
  - ・小中学校等のプールで毎年 1 回
- 水道水・浄水汚泥の放射性物質濃度測定
  - ・各浄水場等で毎月 1 回、浄水汚泥は平成 23 年度に 1 回
- 下水処理場の放射線・放射性物質測定
  - ・各下水処理場で毎月 1~2 回
- ごみ焼却灰の放射性物質濃度測定
  - ・各ごみ焼却施設で毎月 1 回
- し尿処理施設汚泥焼却灰の放射性物質濃度測定
  - ・し尿処理施設で毎月 1 回

上田市ホームページでは、市が独自に測定を行っているこれまで挙げたもの以外にも、県が測定を行っている以下の項目について、上田市に關係する情報を掲載しています。

- 農産物の放射性物質濃度測定
- 学校給食調理場で使用する給食食材の放射性物質の測定
- 保育園給食調理場で使用する給食食材の放射性物質の測定